福井の幕末明治 歴史秘話 ④

# 明治政府で松平春嶽を孤立させた政敵、大久保利通

大久保利通肖像（国立国会図書館蔵）

NHK大河ドラマ「西郷どん」の主人公、西郷隆盛の親友で、後に、敵対した維新のもう一人の元勲、大久保利通。彼と幕末の福井藩主、松平春嶽は、新政府で深い関わりを持っていました。

春嶽は明治3（1870）年から明治12（1879）年の約10年間に記した回顧録、『逸事史補』で、大久保について「大久保参議一蔵は、……古今未曾有の大英雄と申さねばならない。徳川の処分、封土（領地）の奉還、廃藩置県、……日本全国の人心を鎮定してその方向を定めた。すべて大久保一人が全国を維持することによるものである。維新の功績は大久保をもって第一とする。」とし、最大級の賛辞を送っています。

その大久保と春嶽は明治維新後、新政府においてともに重責を担います。しかしながら『逸事史補』で示された賛辞とは異なり、実際、春嶽は新政府内で大久保に絶えず苦汁をなめさせられていました。

福井藩は、明治新政府において、議定に春嶽、また参与に由利公正、中根雪江ら5人が任命されるなど、新政府内で重要な役割を担うとされていました。明治2（1869）年3月には、全国諸藩の意向を図る議事機構として「公議所」が設けられ、各藩の代表により重要議案が審議されました。

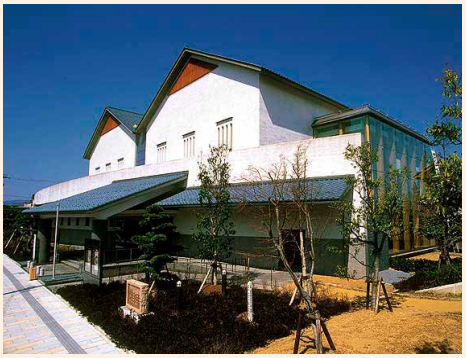
「公議所」は、春嶽が目指した公議政体路線を具体化したものでしたが、大久保らが「無用の論多く、未だ今日の御国体には適し申まじく候」として強硬に反対した結果、同年6月にその機能を大幅に縮小されることになります。藩閥専制政治を目指した大久保らは、公議政体派の排除を図ったといわれています。当時、政府内の要人で、藩主出身は春嶽ただ一人で、横井小楠の暗殺や由利の帰福等、福井藩出身者の離脱が相次ぎ、春嶽は政府内で孤立していきます。この動きの裏には、大久保らによる意図的な福井藩出身者排除の画策があったとされています。

松平春嶽像（福井市立郷土歴史博物館）

春嶽は、その生涯で最も尊敬した人物を薩摩藩主、島津斉彬とし、斉彬こそが明治維新の原点であると評しています。その斉彬が育てた人物として、春嶽は『逸事史補』において、大久保を高く評価しています。しかし、実際の心の内はどうだったのでしょうか。

## 関連史料・ゆかりの地

### 福井市立郷土歴史博物館



古代から現代まで福井の歴史を紹介する常設展示室、越前松平家伝来の品々を展示する松平家史料展示室等があります。また、福井城舎人門遺構、名勝養浩館庭園とともに、「福井 歴史の庭 散策ゾーン」として福井の歴史と文化を発信しています。

【住所】 福井市宝永３丁目 12-1
（JR 福井駅より徒歩 15 分）

参考資料等　現代語訳『逸事史補』 福井県観光営業部ブランド営業課

発行／福井県観光営業部ブランド営業課